

銀賞 中井孝二君

北海道工業大学工学部建築学科 INSTALL/両親の為の家

この建築は両親のための家である。親子で住む為のプログラムのやりとりを行い、いかにニュートラルな形態を決定するかがこの作品の要であったという。全体をほぼ地下空間に収め敷地両サイドのスリットにより光を内部に入れる。しかしそこは場所性を喪失した空間が広がる。一部地上に露出されたユニットは地下とは対照的に外部と存分に関係を持った内外一体の空間となっている。住宅建築の新しい住み方をコンピューターのハードとソフトに見立て行っているが、概念としては理解できるがこの住宅が何故、このような形態或いは形式をとったかが重要であり、結局のところいくら抽象化してもつくることでそれを決定せざるを得ない現実がある。また、個が全体（街）にどのような影響や刺激を与えていくかが建築の行為の大切なところである。それが両立できた住宅は住むことに最も適したものになりえると考える。この作品が自己完結から抜け出しそこまでの広がりを持ったならばもう一つ上の評価もありえたとと思う。

(文責：小西 彦仁君)

